

2004年11月15日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2004年10月度 高島屋営業報告

- * 本年6月1日をもって、立川店レストラン街の運営を東神開発㈱に移管しました。
 * 立川店の前年数値を調整し、分社化した4店の売上を含めた全18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

百貨店事業概況 本年 -12.2 **実質** -5.1 (前年比%)

10月度は、2度に渡る台風により、各店で閉店時間を繰上げた事もあり、入店客数・売上ともに低迷、18店計実質前年比は-5.1%と前年を下回った。リニューアルにより玉川店や高崎高島屋が前年を上回り、東京店が前年を確保したが、大阪店は前年10/7「なんばパークス」開業の反動や、改装工事の影響がみられた。

店舗別概況							関西計		
	関西	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上		-6.2	-2.6	-6.1	-5.5	-10.8	-7.4	-18.1	-5.3
入店客数		-20.0	-4.3	-1.4	-0.9	-7.8	-1.6		

* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

店舗別概況									関東計		
	関東	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上		0.0	-7.9	-6.7	8.5	-12.5	-15.1	-9.7	1.1	-8.6	-4.9
入店客数		5.8	-3.7	-5.9	-5.3	0.1	-12.8	-2.0	-3.2		

* 横浜店には港南台店の売上を含む

* 立川店:実質-9.8%

<店舗別> 東京店では、「石原裕次郎の世界」展(10/13~18)を開催、入場者数約8万人を記録し、入店客数を伸ばした。また、10/20には婦人服・食料品をリニューアルオープン。デパート「インディゴ」では、キャリア層や感度の高い団塊世代層にも人気を得て、2万円前後のインポートジーンズが1日40~50本ペースで売れた。その他、京野菜をメインにした「八百一」(オープン後前年比3割増)や洋菓子「アンリ・シャルパンティエ サロンド・テ」(前年比2割増)も好調に推移した。また、大阪店では10/27、食料品売場に「ローズマルシェ」がオープン。デイリー性を高めた生鮮食品やグロッサリーの豊富な品揃えに加え、集中キャッシャーレジの導入により買い回りしやすい売場が好評を得て連日賑わっている。

広域事業概況	法人	通販	広域計
	4.0	-11.6	-3.2

<広域事業> 法人事業は、新規大型物件の受注増により前年を上回り、通信販売事業は、衣料品の低迷により前年を下回った。

総計	本年	実質
	-11.5	-5.0

商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・用品	-8.7	-2.6	身のまわり品	-6.8	-0.9	食料品	-9.2	-1.4
婦人服・用品	-17.4	-10.6				食堂・喫茶	-6.9	-2.9
子供服・用品	-15.1	-8.3	家具	-15.9	-10.3	雑貨	-7.3	-0.8
その他衣料品	-19.5	-13.1	家電	11.3	13.5	サービス	13.2	13.6
衣料品計	-15.6	-9.0	その他	-14.1	-8.5	その他	-20.1	-16.0
			家庭用品計	-13.4	-7.9	合計	-11.5	-5.0

<店頭商品別> 特選衣料雑貨(前年比+1.7%)、美術(同+22.8%)が前年を上回り、新宿店(同+8.8%)や東京店(同+7.0%)において、冬物スーツ・コートに動きがあった紳士服(同+0.3%)や紳士雑貨(同-0.6%)に回復が見られた。その他は、婦人服(同-10.9%)、婦人雑貨(同-4.3%)、ハビリー・子供(同-8.2%)、リビング(同-11.2%)などが低迷し、食料品(同-2.3%)も前年を下回った。

以上